

# SYNAPIS ニュース

社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

No.55 2020.12

今月のテーマ：教皇フランシスコの平和の呼びかけ



待つ

カトリック大阪大司教区 社会活動センター シナピス

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。

イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

TEL 06-6942-1784 FAX 06-6920-2203 E-mail [sinapis@osaka.catholic.jp](mailto:sinapis@osaka.catholic.jp)



センター長 松永敦

新型コロナウイルスの感染拡大によって、世界的な人・モノの動きが制限され、先の見通しがつかない状況にあっても、教会は典礼暦上の新しい年を迎えることができました。確かに時は流れているという証拠でしょう。

今年、教皇フランシスコはパンデミック終息のために「祈りと断食、愛のわざを行う」ように呼びかけられました。待降節を迎えた今、コロナ禍の中で生きる希望を失いそうになっている人に、私は牟礼慶子さんの「見えない季節」という詩を送りたいと思います。

できるなら 日々の暮らしを 土の中のくらさに / 似せてはいけなんでしょうか  
地上は今 ひどく形而上学的な季節 / 花も紅葉もぬぎすてた  
風景の枯淡をよしとする思想もありますが / ともあれ くらい 土の中では  
やがて来る華麗な祝祭のために / 数かぎりないものたちが生きているのです  
その上人間の知恵は / 触れればくずれるチューリップの青い芽を  
まだ見えないうちにさえ / 春だとも未来だともよぶことができるのです

「見えない季節」というのは人生の季節を表していて、まさにコロナ禍の今が当てはまると思っています。この詩を読むと、春になる直前の最も寒い時期の冬をうたっているように思えます。

真冬に桜の木を見たことがあるでしょうか。ほとんどの人は春には見ますが、冬は見ないと思っています。なぜならば、冬の桜は枝だけで見るに値しないと考えているからだと思えます。しかし、真冬に桜の木をよく見ると、その枝には蕾があります。目立たないですが、桜の木は春に私達を喜ばせる準備を真冬の間に行っています。今この時も、この桜のつぼみとも似ていて、暗さの中、苦しみの中にこそ喜びの種があるんだということだと思えます。苦悶の底、真つ暗な今であったとしても、実際にはそこに既に春ははじまりを見せているんだということを教えてくれているのだと思えます。

### 今月のページ

#### ■ ニュースレター 目次 ■

- 1 巻頭言
- 2 シナピスの風
- 3 子どもたちに伝えたい平和
- 4 障がい者委員会より
- 5 時報 12月号より
- 7 教えてください～！！第九弾！
- 9 みんなの掲示板
- 10 沖縄とわたしたち
- 11 憲法がかわったらどうなるの？
- 13 あとがき

#### ■ チラシ・ご案内 ■

- ・シナピスの風（A3 小教区と修道会のみ）
- ・12月の祈り
- ・忘れないあきらめないカレンダー
- ・教皇訪日一周年を迎えて  
日本カトリック司教協議会 会長メッセージ
- ・飯森山麓クリスマスフェスタ
- ・「蟻の兵隊」上映&トーク
- ・中村哲さんの遺志を引き継ぎ世界の平和をめざそう！
- ・ドキュメンタリー「“かくり”の証言～長嶋愛生園・  
邑久光明園から～」（仮題）協賛金募集について（趣意書）





# すべてのいのちを守ろう

2021年 正義と平和協議会全国集会 大阪大会テーマ

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

# シナピスの風

\* 行事はコロナ感染症の影響で延期または中止になることがあります。ご参加の際は連絡先にお問い合わせください。

第133号 2020年12月1日発行

## 12月の祈り

ルカ福音書で伝えられているイエスの誕生の記録に羊飼いたちが登場しています。彼らの姿を見つめながら、祈ります。羊飼いたちのところに天使が遣わされて喜びの知らせを告げますが、彼らは大いに恐れたと書いてあります。天使の姿を身近なものとして感じられなかったのです。しかし、告げられたことばを心に留めて、ベツレヘムへ出向いて行って、馬小屋に入ります。飼ひ葉桶に寝かされている幼子に出会って、喜んで、神を賛美しながら帰っていきます。幼いイエスのうちに、自分たちをいだきたい神様の慈しみを感じたでしょう。私たちと共にいてくださる天の父よ、クリスマスをお祝いすることによって、小さな者のうちに、虐げられた者のうちに、私たちに様々な形で呼びかけるあなたの姿を見出すことが出来るよう導いてください。アーメン。



シナピスでは、毎月のお祈りをニュースレターとともにお送りしております。教会で、ご家庭で、日々のお祈りにお使いください。シナピスのホームページからも、ダウンロードしていただけます。

## 飯盛山麓

## クリスマスフェスタ

日 時：12月20日（日）  
14：00～16：00  
場 所：カトリック大東教会



### 【プログラム】

1. ペーパーサート「降誕物語」  
カトリック大東教会有志
2. 講演「クリスマス  
—居場所の無い人々のことを想う季節—」  
講師：ビスカルド篤子（カトリック大阪大司教区  
職員・外国人信徒や難民よろず相談窓口）
3. クリスマスハーブ演奏  
演奏：徳井由美子さん  
（ハーブ・弾き語り）

主 催：カトリック大東教会  
問合せ：090-6605-3465（高橋）  
\* 公共交通機関でお越しください。



## シナピス工房のクリスマス



毎年ご好評をいただいているクリスマスグッズを、今年もご用意しています。売り切れの品物も出てきていますので、ご希望の方はお早めに。カタログをご所望の方はシナピスまでご連絡ください。

## 教皇フランシスコ訪日講話集

## すべてのいのちを守るため

四六版並製 128頁+カラー16頁  
定価（本体1100円+税）  
教皇来日から1年が過ぎました。  
いただいたメッセージをいまいちど味わいませんか。  
☆シナピスにあります。



お求めいただいた方にシナピス限定教皇メダストラップをプレゼント。数に限りがあります。お早めに！  
ご希望の方は、下記シナピスまで



## 運転手募集！

- ①12月18日（金）（朝から夕方まで）玉造→京都河原町→宇治市→玉造
  - ②12月19日（土）（朝から夕方まで）玉造→宇治市→玉造
- \* 1日だけでも構いません。両日とも京都で奉仕活動をする難民男性3名の送迎です。  
AT 乗用車（シナピス公用車）、高速料金、ガソリン代、昼食はシナピス持ちです。  
詳しくは下記シナピスまで 困っています！！

至急！

## 食糧支援のお願い

コロナ禍で解雇された技能実習生、帰国できずに困っている留学生が増えています。パスタ、パスタソース、インスタントラーメン、米、缶詰など、食べ物のご支援をお願いします。

QRコード



# 子どもたちに 伝えたい平和



## 平和を生む祈り

吉村信夫

新型コロナの年であったと思います。若い皆さんにとって、どんな年でしたでしょうか。だんだんと、大人の世界はイライラとぶつかり合いがあちこちで起こってきています。ゆるせない、ゆるさない、といった悪い雰囲気が広がってしまっているように思います。

今回は、若い皆さんに一つの詩を紹介したいと思います。笠木透さんの「みんな生きている海～日本国憲法第104条」という詩です。

日本国憲法第104条

人間はたとえ、

自分にとってよいことでも、

家族にとってよいことでも、

会社にとってよいことでも、

国家にとってよいことでも、

地球にとってよくないことはしてはいけない。

それは、

人間にとってよくないことだから。

だから、

人間にとって良くないことは

決してしてはいけない。

2回も3回も読み返してください。感じたことを友だちや家族の人たちと話し合ってください。話し合う途中で、さらに何回でも、読み返してください。心の中にどのような感じが浮かんできたかを話してみてください。

いろいろな時に、わたしたちはお祈りをします。主の祈り、アヴェマリアの祈りは知っていますね。ミサも祈りですから、ミサの中で心に浮かんでくる感じも思い起こしてください。祈りの時の気持ちは平和です。平和を思う時に心は静かに落ち着きます。祈りの気持ちは平和そのものですから。

実際の日本国憲法は103条で終わっていますから、この詩のような104条はありません。でも、どう思いますか。この詩と祈りの時に感じる思いとが、つながっていると思いませんか。

地球を思う気持ちと平和を願う気持ちは、どちらも祈りの心として、同じようではないでしょうか。地球のことを思い、平和を願い、祈りの心を大切にしていきたいと願います。



### 情報入手に格差を生むコロナ禍

障がい者委員会 たけざき 嶽崎 裕子

新型コロナウイルス感染症が地球を襲って 1 年近くになります。まだ続いています。日本においても、外出規制等多くの生活様式が変わってきています。

リモートワーク・リモート授業などの言葉が飛び交い、パソコン・スマートフォンがなければ、仕事も勉強もできません。政府の行う「GO TO トラベル・イート」の QR コードが、あらゆるところに添付されています。

今、人が二つのグループに分離されてしまっています。パソコン・スマホを使いこなし、QR コードを使ってポイントをためたり、政府の行うキャンペーンを利用し、税金還元を得られる人たち。もう一つは、パソコン・スマホを使えない人、使わない人たち。情報を得ても、どうしたらいいのかわからない、高齢者・視覚障害者・外国人住民などなど。

一般に社会全体が、パソコン・スマホを駆使できる人たちに向け、情報発信をしています。マスコミから見えてくるものも同じです。視聴者の意見を聞くのも、TV の上のほうに QR コードがでて、そこにスマホをかざしてもらうか、E メールでの入手方法になっています。もう一つのグループの意見は必要ないようです。

教会という組織の中で考えてみたいと思います。大阪教区が出したコロナ禍に関する提言が、小教区の人たち全員に充分伝えられたのか気がかりです。個人情報等のことがあり、最近は電話連絡網のある小教区も少なくなり、またコロナ禍の中、個別訪問も困難な状況です。IT を使った情報を入手できない人たちに対しても平等に情報を伝えるためにはどうしたらいいのでしょうか。

または、「個人情報等のことがあり、最近は電話連絡網のある小教区も少なくなり、またコロナ禍の中、個別訪問もできず、情報の伝達が困難な状況に思えます。」ではいかがでしょうか。

教会の情報がわからず悶々としている方がおられるのではないかと案じます。

小教区内の信徒の方たちに情報を伝えるには、IT 使用者用と、IT を使わないで連絡が必要な方用の二つの方法を、前もって小教区で認知しておく必要があると思います。この二つの方法で考えることがコロナ後の情報伝達様式になるのではないのでしょうか。まさに最新の方法 IT の駆使と、オーソドックスな昔ながらの方法で・・・神の国につなげましょう。



## イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、  
その悩みを少しでも分かち合うことのできる、  
教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」  
増補新版より

# いのちへのまなざし

社会福音化部 松浦謙

昨年のフランシスコの訪日のテーマは「すべてのいのちを守るため」でした。教皇は5年前に発表した回勅「ラウダート・シク」ともに暮らす家を大切に」で、神がおつくりになったすべてのいのちを大切にしよう」とよびかけています。

偶然ここでわたしが思い起こしたのは、10年前に49才でがんで亡くなった鍋島祐次さんの闘病記『病を与えられるということ』（左下参照）の一文です。彼は姫路聖マリア病院の医者でした。亡くなる1年前、次のように書いています。

「最近ちいさなよろこびを数多く感じるようになった。・家のすぐ裏手の山からウグイスやヒバリの鳴き声が聞こえてきたときなど、本当に心から嬉しくなるのだ。もちろん美味しいものを食べたり、美しい音楽を聴いたり、郊外のどかな環境に身を置いたりしたときなども、以前よりいっそう感動するようになった。・（今僕自身は）妻や子どもたちとのたわいもない会話そのものを楽しんでいるし実際何かのためでなく心からそのこと自体を望んでいる。そしてこの小さなよろこびの中にこそ生きる力の源泉があると思えるのだ。・今僕は祈る。僕の心に生まれたこれらの小さなよろこびの芽が、永遠に消えることがないように、と」（95ページ）

がんの治療中、自分があとどれくらい生きられるか分からないけれども、今、生きていること、一時、一時、与えられているいのちを感謝し、いとおしむ気持ちを表現しています。

美しい自然。生きとし生けるすべてのもの。そしてこの地上の営み、家族や友人、自分とともに生きている人たち、すべてを神からのすばらしい賜物、かけがえないものとして感謝して受け止め味わうのです。

このような「いのちへのまなざし」をもってすべてのものを見、そこに

神様のいつくしみと愛の心を読み取っていくこと。それは教皇のことばをかりれば「わたしたちの間に住まわれ、わたしたちを包んでいてくださる創造主を観想すること」です。それがわたしたちの在り方、生き方になっていくように願います。



病を与えられる、ということ  
出版社 牧歌舎 2009/3/1  
全 163 ページ  
¥1430



## 日本カトリック部落差別人権委員会 2020 年度全国会議報告

### 1. 一感染症と人権

コロナ禍の中で延期されていた全国会議が10月23日、平賀徹夫司教に代わって新しく委員長に就任された中村倫明司教のもと、対面とリモートを組み合わせたハイブリッド会議の形で開催されました。例年、一年間の報告や今後について話し合う会議と公開講演会が主な内容ですが、初めてのリモート会議のため公開せず、28名という限られた人数の集まりとなりました。

最初に基調講演「感染症と人権—HIV 陽性者の視点から」をお聞きしました。講師の高久陽介さん（NPO 法人日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス代表理事）は現在、早期発見、治療により HIV ウイルスの増殖と感染リスクを抑えることができるにもかかわらず、就学、就労における差別事例は多く、検査をさまたげることになっている、偏見や過度の恐怖が感染症の拡大に加担していると指摘し、パワーポイントを使って分かりやすく説明しながら、「HIV」「エイズ」に対するイメージを今すぐアップデートしてほしいと言われました。現在進行中のコロナ禍にも当てはまる示唆に富むお話でした。

そのあと、グループ別で分かち合いを行いました。ほとんどの方がリモートでしたが、私が参加したのはサクラファミリアでの対面のグループで、まずコロナ禍で感じたことを分かち合いました。感染第一号になったら大変と思った、うかつに風邪もひけない状況、コロナにかかり住みにくくなり引越した知人がいる、グループホームを訪問したら「コロナを持ってきた」と責められたなど、最初は病気が恐ろしかったがだんだん人の目が恐ろしくなってきたという話が口々に語られました。また、ハンセン病に対する誤った政策の反省から学ぶことは多い、「正しく恐れ、きちんと守る」ことの大切さ、コロナ以前に戻るのではなく、コロナ以前と異なる生活を考えなければならない、偏見、差別に対し「おかしい、人権問題だ」と言っていくことが必要などの指摘もあり、皆、共感を以てお聞きしました。

全体会では周囲に流されず自分の頭で考えること、防衛費に回す予算を、教育、福祉、医療に回すよう国の在り方を変えていくために声を上げていくこと、この状況の中での教会の使命とは何か、など前に進むためのたくさんのヒントをいただきました。

この会議を通じて、今なお社会に根強く残る差別を解消していく道筋についても改めて考えさせられました。人は自分や家族を大事に思うあまり、過剰に恐れその結果偏見にとられる危険に陥りがちです。

しかしその弱さを自覚し正しく知ろうとすること、そして病気に感染したとしてもそれを人に話し、適切な医療を受けられる社会、医療システムを築いていくことが、病気の人であれ、まだ病気になっていない人（いわゆる健康な人）であれ、すべての人の安全につながると確認することができました。それは部落差別からの解放を願った日本初の人権宣言である「水平社宣言」が「人の世に熱あれ、人間に光あれ」と、既に 100 年前に語っていることです。「人間」は「にんげん」ではなく、「じんかん」と読み、人と人之間、つまりすべてのものを指すといえます。出自、性、民族など、社会において「少数者」とされている人たちが、それを隠さざるを得ない社会ではなく、ありのままの自分を生きられる、誰もが生きやすい社会を創っていくことが、コロナ禍を生きる私たちの課題であると思いました。



日本カトリック部落差別人権委員会ではカトリック教会が「差別」についてどのように考えているのかを、多くの方に知っていただけるように、日本カトリック司教団が 2017 年に発行した『いのちへのまなざし【増補新版】』の中の「差別」の項（p145～p153）を抜粋して小冊子として発行しました。

この小冊子を読んでいただき、『いのちへのまなざし【増補新版】』全体にも、関心を持っていただけたらと希望しております。お問い合わせは以下にお願いいたします。

問い合わせ:日本カトリック部落差別人権委員会

☎:03-5632-4482 FAX:03-5632-7920 E-mail: buraku@cbcj.catholic.jp



教えてください~!! 第九弾!

# 「エコジカルな回心」とは?



## こどもと「コロナ禍」

緊急事態宣言が出たこの春、何か月にもわたって学校が休校となりました。先月号で、家事を担い学校にもどれなくなる女兒をコロナ禍対応の中心とするように、国連が世界に呼び掛けたことを紹介しました。日本でもまた「コロナ禍」がこどもたちに影響を与えています。休校により教育の機会の格差がさらに広がり、お腹をすかせたこどもたちの存在が明らかになっています。

### そもそも・・・「こどもの貧困」とは

その国や地域の大多数と比べて貧しい状態のことを「相対的貧困」といいます。日本でも、例えばこどもの場合、塾や習い事に行けない、学校や部活で使う用具を新調できない、家族で旅行する機会がないなど、周りの友だちが当たり前に行っていることをできない相対的貧困の状態にあるこどもが7人に一人（2018年）はいると言われています。ひとり親世帯の場合、この割合がさらに高くなります。このこどもたちが、将来に対する希望を失いつつあることが深刻な問題で、社会が解決すべき課題の一つになっています。

### こどもたちにコロナはどう影響した?

「コロナ禍で『教育格差の拡大に拍車』  
年収 400 万円未満の場合、3 割がパソコン、タブレットなく」  
・経済格差と学力の相関はコロナ前から生じていたが、臨時休校によって格差拡大に拍車がかかった。  
朝日新聞 10月11日

しんどい親子がよりしんどくなっている現実。コロナ禍は大人だけの問題ではありません。声を上げられないこどもたちや追い詰められている親たちの声も大切に聞きたいと思います。

「子ども食堂『開きたいが・・・』『3密』『スタッフ高齢』、コロナ対策に苦慮」  
・地域の小学生が「おなかがすいてたまらない」、育児や家庭のことで悩む母親は「話せる場がほかにない」と訴え。  
朝日新聞 9月13日

## 「世界こども助け合いの日」と「こども基金」

カトリック教会では毎年1月の最終日曜日を「世界こども助け合いの日」に定めています。大人もこどもも、この日は貧しさのために働かなくてはならないこどもや、学ぶ機会を奪われているこどもたちに心を寄せ、献金をします。献金はローマ教皇庁に集められ、こどもたちのために使われます。

シナピスでも「こども基金」を設け、傷つきやすいこどものいのち、生活、教育、人権などを守り、回復しようとする国内外のグループや団体の取り組みを支援しています。これまでグアテマラの障がいを持つこどものリハビリ指導団体やフィリピンの性的虐待を受けた女の子を支援する団体、福島放射線被害で外遊びができなくなったこどもへの支援団体、大阪の外国にルーツを持つこどもたちの学習支援団体などに支援をしてきました。

コロナ禍の今、困っているこどもたちのためにできる支援をしていきたいと思っています。今、その思いで「こども基金」に思いを寄せ、寄付をして下さっている方が沢山おられます。支援先を常時募集していますので、お心当たりのある方はぜひご連絡ください。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



国連は、SDGsで児童労働を2025年までになくすことを目標にしています。



みなさんがご存じのことを教えてください

## たとえばこんなこと

1. 環境のためにしていること、昔から言い伝えられている知恵

2. 便利そうで買ってはみたけれど、結局使わなくてむだになったもの

☆お名前またはニックネーム \_\_\_\_\_

☆連絡先（メールアドレスや電話番号など）

☆投稿方法 FAX : 06-6920-2203 / メール : [sinapis@osaka.catholic.jp](mailto:sinapis@osaka.catholic.jp)

QR コード\*

\*QRコードの読み込みには、スマートフォンなどでQRコードリーダーをダウンロード  
することが必要です。





# みんなの けいじばん



\*シナピスホームページが工事中です

更新の途中に原因不明の不具合が生じ、ホームページが見られなくなりました。これを機に、さらなるホームページの充実化に向けて検討中です。ご迷惑をおかけしますが、今しばらくお待ちください！



## こんな HP にできたら・・・

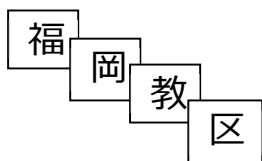
自分たちの小教区でしている活動を紹介したい。

携帯でみられるフェイスブックやインスタグラムがあったらいいなあ。

いち信徒として思うことや、やっていることを伝える場が欲しい。

シナピスの支援活動について知りたい。何かしたい。

一人では難しいので仲間を見つけたい



ホームページ制作にかんして先駆的な取り組みを行っている福岡教区のホームページ担当者から、再立ち上げの契機や具体的な運営方法についてお話を聞きました。福岡教区では、ホームページの刷新にあたって司祭や信徒 7 人がプロジェクトチームを組み、半年にわたってワークショップ（体験型講座）や分かち合い、祈りを中心に福音宣教の在り方を考えたそうです。



「ホームページは訪ねてきてくれた人たちの『出会いの場』です。特別な人だけでなく、私たちの日々の生活の中に織り込まれている信仰を掘り起こして伝えたいと思っています。」（福岡教区平尾さん）

福岡教区での取り組みをうかがい、ホームページがひとつの分かち合いの場であることを感じました。そして誰にとっても「出会いの場」になるようなホームページを作りたいという気持ちを新たにしました。しかし、具体的にどう実現していくのか、正直なところ前途多難です。

**至急！**

### 運転のお願い

- ①12月18日（金）（朝から夕方まで）  
玉造→京都河原町→宇治市→玉造まで
- ②12月19日（土）（朝から夕方まで）  
玉造→宇治市→玉造

**困っています**



\*1 日だけでも構いません。両日とも京都で奉仕活動をする難民男性 3 名の送迎です。AT 乗用車（シナピス公用車）使用、高速料金、ガソリン代、昼食はシナピス持ちです。

詳しくは下記シナピスまで

### 食糧支援のお願い

コロナ禍で解雇された技能実習生、帰国できずに困っている留学生などの相談が増えています。パスタ、パスタソース、インスタントラーメン、インスタントスープ、米、缶詰、賞味期限の長いパンなど、日持ちのする食べ物などのご支援をお願いします。

詳しくは下記シナピスまで。



掲示板には、メール、FAX、または右の QR コードからご投稿ください。

☆電話番号：06-6942-1784 ☆FAX 番号：06-6920-2203

☆メール：sinapis@osaka.catholic.jp





### 首里城再建

昨年焼失した首里城の再建支援が進んでいます。沖縄県の「首里城火災復旧・復興支援寄付金」、那覇市の「首里城火災に対する支援金」などへ、県内外、海外から50億円を上回る寄付が寄せられています。その中には、高校生たちの募金活動によるものもあります。

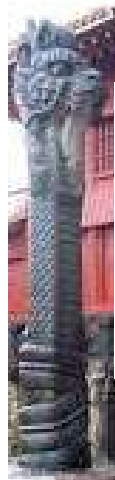
一方政府は今年3月、再建に向けた関係閣僚会議を開き、今年度中に設計、2022年から着工、正殿を2026年に完成する方針を示しました。首里城の所有権は、城郭の中は国営公園で国に、外は県営公園で県にあります。しかし県のシンボルである正殿の復元を国主導で行うことに対し、県民の間には違和感や警戒感があります。

### 首里城再建に向けて

漆塗装職人で、県指定無形文化財保持者(琉球漆器)の諸見由則さんは、焼失前から10年以上首里城正殿などの壁、柱の修復、復元作業に携わってきました。焼失には信じられない思いでしたが、修復の経験を生かし、再建に向けて工事の効率化も工夫しながら「必ず首里城を取り戻したい」と意欲を語っています。

正殿の屋根を彩る赤瓦は台風で飛ばないように漆喰で塗り固められ、沖縄の青空を背景に赤と白のコントラストがひととき鮮やかです。しかしコンクリートや県外産の赤瓦の普及により、県内の赤瓦の需要は減り、職人は人手不足になっています。再建を契機に、良質の原料粘土の確保や、高齢化する職人の後継者育成が課題となっています。

今は  
右向いてるよ



焼失前の大龍柱(左側)

### 大龍柱はどっち向き？

正殿の正面に立つ二本の大龍柱は、与那国島のフルイシ(細粒砂岩)でできていて、昨秋の火災時にも焼け残りました。左右向き合うよう形で立っていますが、実は正面を向いているのではないかとの議論が続いていました。この11月、正殿の最古写真が発見されました。1877年フランスの軍艦が来航、琉球王国と修好条約を結びましたが、その際に撮影されたものとされ、大龍柱は正面を向いています。

首里城は  
本土とは違う沖縄の  
魂の象徴なのね。  
正確に復元したい  
のは当然だわ。

辺野古に投入する  
お金を首里城再建に  
回せばいいのに…。

## 歴史に触れよう！

### 「離島差別」

本土による沖縄差別は深刻ですが、それ以前琉球王国の時代、王府による先島諸島への過酷な支配がありました。王府は島々に役人を置き、1609年の「琉球処分」後は薩摩への貢納のため、15歳から50歳までの島民全員に本島より高率の税をかけました(人頭税)。人頭税は徴収に当たる王府役人の不正もあり農民を苦しめました。王府は5人組制度を設け、農民を相互に監視し合うようにさせ反抗を防ぎました。1624年、石垣島にスペイン船が漂着、乗っていた宣教師を保護した石垣永将が捕らえられ火刑になった事件(八重山キリシタン事件)のあと、琉球は南方からくるキリスト教宣教師を水際で摘発する最前線となり、宮古・八重山への支配も強化されました。

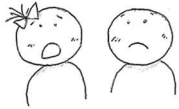
近代に入っても続く人頭税に喘ぐ農民を見かね、新潟出身で宮古で真珠の養殖をしていた中村十作は島民と共に廃止運動に立ち上がりました。1894年帝国議会に請願書を出し、1903年ようやく人頭税は廃止されます。このような歴史背景により、離島の人々の本島への思いには複雑なものがあります。明治政府による第二次「琉球処分」は、離島にとっては王府支配からの解放でした。また首里の繁栄には離島からの租税も貢献し、首里城建設には離島の人々も駆り出されました。現在政府によりおこなわれている沖縄振興策も、人口の多い本島が優先されています。首里城再建に向けて盛り上がる世論の陰には、本土と沖縄との関係に類似する本島と離島の支配被支配の歴史、離島差別があります。

# 憲法が変わったらどうなるの？ 第25弾

## メッセージ



10月のシナピスニュースに掲載した、「無言館」展についての記事を読んで、出征前夜に書き上げたという芳賀準録さんの自画像をどうしても一目見たくて、神戸ゆかりの美術館へ行ってきたよ。  
戦没画学生たちの絵がたくさん展示されていた。  
未来への希望と夢をいだいて、絵にその思いを託した画学生たち。  
作品から様々なメッセージが伝わってきた。



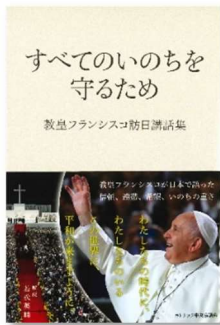
この画学生たちが生きておったら、  
わしと同じくらいの歳やなあ。



広島で被爆して亡くなった2人の画学生の絵もあったよ。



教皇フランシスコが来日してから1年が経ったけど、  
広島を訪れた教皇が次のおっしゃっていたね。



「ここで大勢の人が、その夢と希望が、一瞬の閃光によって跡形もなく消され、影と沈黙だけが残りました。

私は平和の巡礼者として、この場所を訪れなければと感じていました。あの凄まじい暴力の犠牲となった罪のない人々を思い起こし、現代社会の人々の願いと望みを胸にしつつ、じっと祈るためです。とくに平和を望み平和のために働き、平和のために自らを犠牲にする若者たちの願いと望みです。」（教皇フランシスコ来日講話集より）

画学生と教皇のふたつのメッセージから、二度とこのような若者たちの願いと望みを奪ってしまうような、戦争の道を作ってはいけないと、あらためて感じている。  
この若者たち、そしてすべての犠牲者の上に、今の憲法はあるんやな。



木村草太さん（東京都立大学教授《憲法学》）はこんなことを言っている。



「憲法とは国家権力が過去に犯してきた失敗のリストだ  
国家は戦争、人権侵害、独裁 この3つの失敗を繰り返してきた。  
この国家権力による失敗をリスト化して禁止し、これ以上同じ過ちを繰り返さないためにつくられた。戦争を二度と起こさない、人権を保障し、独裁を防ぐルールを盛り込んだものが憲法。」

憲法を改正するということは、時代を遡り、  
国家権力が同じ過ちを犯すことにつながるのでは……………。



無言館展を観た方からつぎのようなメッセージが寄せられました。



ご紹介します。

●夫婦で観に行きました。

夫が外国人で日本語を読めないのに、作者のお名前と、作者がどこで、どのように、何歳で亡くなったのか、そして「妹を描いた」「出征の当日の朝までカンバスに向かっていった」などのエピソードを全て声に出して読みあげました。そのようにして迎えるうちに、いたたまれなくなり、絵を直視できなくなりました。声に出して名前を読み上げると、あのようなむごい形で亡くなったお一人お一人が確かに実在していたことが胸に迫り、息の詰まる思いがし、観終わってしばらくは何の言葉も出ませんでした。

●絵の数々は芸術作品である前に、画学生の生きた証そのものに思えた。絵の傷や補修の跡から、大切に守ってきた遺族、無言館スタッフの思いも伝わってきた。画学生の半数が1945年に亡くなっている。戦争がせめてあと半年早く終わっていただければと思わずにはいられない。中国やフィリピンなど激戦地で、それでも絵筆と画帳を持ち続けていた心の内はどんなものだったろう。戦死と報告されているけど、餓死も多かったと聞く。絵を描きたいと思いが亡くなったのかもしれない。20代の方は7割近くいた。その若い感性の痛ましさを、戦後の私たちは忘れてはいけない。長野の無言館にも行ってみたいと思う。

●妹を描いている絵、街を描いている絵……

沢山の絵を見た。これを描いた人たちはこの時生きていたんだ。今の世の中、どんどん怪しくなっている。この国はこの人たちにこんな理不尽な死を強いた、それでもまだ戦争やるか！？と言いたい。

●彼らの誰一人として、自分の絵が無言館という施設の展示物となるとは思ってもいなかったでしょう。戦争がなかったら画家になったり、子どもたちに絵を教えていたかもしれない。絵を描いて暮らしていきたくったでしょうに。無言館の絵は、本当は国会に展示されるといいのに。

●一人ひとりの絵の横に名前と年齢が記されていました。そのほとんどが、こどもたちと同年代です。ただひたすらに自分のしたいことに打ち込み、描きたいものを描く。当たり前の自由を戦争によって奪われたこの若者たちを思うと胸が苦しい。ある人は軍服のポケットに筆をしのばせていたそうです。この筆を銃に持ちかえなければならなかった画学生たちの思いは想像を絶し、耐え難いものがありました。目の前にいる息子たちもいつ同じようなことになるかわからないのです。

戦没画学生慰霊美術館 無言館

〒386-1213

長野県上田市古安曾字山王山 3462

TEL : 0268-37-1650

FAX : 0268-37-1651

ホームページ

<https://mugonkan.jp>

開館時間：9時～17時

休館日：火曜日



アクセス

電車：JR北陸新幹線／しなの鉄道「上田駅」にて乗り換え、上田電鉄別所線「塩田町駅」から徒歩30分。

車：上信越道・上田菅平ICより約35分／長野道・岡谷ICよりR142経由約1時間

入館料：一般1000円 高・大・障がい者800円

小・中学生100円

(無言館ホームページより <https://mugonkan.jp>)



# 売り切れあり！！ シナピス工房のクリスマス

先月カタログをお届けした  
クリスマスグッズ  
おかげさまで大好評をいただき、  
スタッフも移住者も嬉しい悲鳴を  
上げています。今月も再度同封しまし  
た。ご覧ください。売り切れの品物  
も出てきています。また発送までに  
少しお時間を頂戴しています。  
お早めにお申し込みください。

活動へのご支援ご協力をおねがいします

郵便振替 00960-7-61419

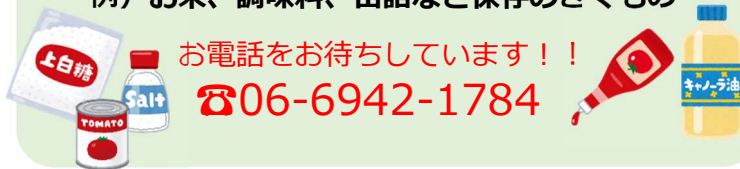
加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。  
難民移住移動者支援もよろしくお願いいたします。

## 食料品提供のお願い



例) お米、調味料、缶詰など保存のきくもの



お電話をお待ちしています！！

☎06-6942-1784

◆ HP はただいまリニューアル作業中です。  
再開まで今しばらくお待ちください。

## あとがき

悲しみ涙する人を思わず抱きしめた経験は誰しもあるかと思えます。先日、一人の移住者のお母さんが故郷で不治の病に侵されていると知り、悲しみに暮れていました。自分の身をどこにゆだねたらよいのか、苦しんでいる彼を、スタッフは抱きしめそばに寄り添いました。コロナ感染症の患者を思わず抱きしめた医師の写真ネットで見ました。教皇フランシスコは難病のため皮膚が腫瘍で覆われ、外見で差別を受けてきた人を、ひるむことなく黙ってしっかりと抱きしめられました。目の前で嘆き苦しむ人を前にフィジカルディスタンスはありません。サンタはロックダウン対象外だとイタリア首相。救い主を待ち望む人が目の前にいます。ただそこにいることしかできないかもしれませんが、コロナ禍であっても、主の名のもとで、私たちのスタンスはこうありたいと思います。(H)

## ▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

### ◆広報活動

- ・教皇メッセージ、司教団メッセージ等  
社会活動の指針の伝達
- ・読者と教会内外の社会活動をつなぐ  
機関誌としてシナピスニュースを発行

### ◆大阪教区・社会活動委員会との連携

### ◆学習会研修会の企画

### ◆こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

### ◆カトリック中央協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、  
カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

### ◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ

### ◆難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

### アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22  
カトリック大阪大司教区事務局内



### 公共交通機関ご利用の場合

- JR 森ノ宮駅より 約 1000m
- 地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より 約 800m
- JR 玉造駅より 約 1000m
- 地下鉄御見線地線玉造 1 番出口より 約 800m

### 車でお越しの場合

阪神高速 1 3 号東大阪線法円坂出口  
法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがいします

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス



# 忘れない あきらめないカレンダー

どんな状況下でも、忘れず、あきらめず、希望をもって歩む皆さまに、情報を配信します。



## 2020年 12月 の 案内

★印 カトリック関係

2020年 祈禱の信徒 祈りの意向 12月

世界共通の意向:福音宣教の意向: 祈りの生活

イエス・キリストとのパーソナルなかかわりが、神のみことばと祈りの生活によって養われますように。

日本の教会の意向: いのちへのまなざし

神の創造によって生を受けたわたしたちが、すべてのいのちを見守る神のまなざしを、自らのうちに育むことができますように。

新型コロナウイルス感染症の影響で中止される場合があります。事前に各主催者へお問い合わせください。

1	火	世界エイズデー
2	水	奴隷制度廃止国際デー
3	木	国際障害者デー
4	金	
5	土	経済・社会開発のための国際ボランティア・デー 世界土壌デー [FAO]
6	日	<p>●戦争あかん！ロックアクション 御堂筋デモ ■場所:新町北公園 14時～集会 14時40分～デモ 主催:戦争あかん！ロックアクション ブログ:「戦争あかん！ロックアクション — 戦争法・秘密法廃止！」 Facebookグループ:「戦争あかん！街角プロジェクト」 Facebookページ:「戦争法・秘密法廃止！ 集会・デモ情報」</p> <p>●コロナ禍の子どもと学校教育 ■場所:アステホール 受付14時 14時半～16時半 講演:桜井智恵子さん(関西学院大学人間福祉学部教授) 報告:北上あきひとさん(兵庫県議会議員) 参加費:500円(学生無料) 主催:市民の力で社会を変えよう!連続市民講座実行委員会 問合せ:090-5132-0028(小柳) 090-3717-7271(山岸)</p>
7	月	<p>●映像で現代を語る会 ■場所:大阪市北区民センター 18時～20時半 その後交流会 上映「調査ドキュメント～外国人技能実習制度を追う」(ETV特集)「わたし(辛淑玉)と弟～在日女性が生きるいま」(映像20') 会場費300円 主催:映像で現代を語る会 問合せTel090-5151-9763(中森)</p> <p>●老朽原発うごかすな！リレーデモ ■場所:茨木市役所前 10時出発 新大阪英付近までデモ 主催:原発動かすな!実行委員会@関西・福井 連絡先:オール福井反原発連絡会Tel090-8263-6104(林広員) ふるさとを守る高浜・おおいの会Tel090-1896-8882(東山幸弘) 若狭の原発を考える会Tel090-1965-7102 fax075-501-7102 ✉kiharas-chem@zeus.eonet.ne.jp(木原杜林)</p>
8	火	
9	水	国際民間航空デー [ICAO] 国際腐敗防止デー
10	木	<p>人権デー</p> <p>●講演会「日本軍の南京特務機関について」 ■場所:神戸学生青年センターホール 18時半～20時 講師:楊小平さん(島根大学国際交流センター特任講師) ZOOM講演会になる可能性あり 参加費500円 主催:神戸南京をむすぶ会 問合せTel078-851-2760</p>
11	金	
12	土	<p>国際中立デー ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ国際デー</p> <p>●中学校教科書採択全国報告集会2020 育鵬社を激減に追い込んだ市民の闘い ■場所:エルおおさか南館5階ホール 18時開場 18時半～20時半 資料代:1000円(学生、しょうがい者無料) 主催:「戦争教科書」はいらない!大阪連絡会 ブログ:「子どもたちに渡すなあぶない教科書」</p> <p>●南京証言集会 日軍南京特務機関—南京占領はいかになされたか!! ■場所:PLP会館 5階大会議室 13時開場 13時半開始 講師:楊小平さん(島根大学特任講師)リモートの可能性あり 上映:被害証言:石秀英さん インタビュー:丸山進さん(元特務機関員) 資料代:800円 主催:南京大虐殺60周年大阪実行委員会 Tel080-3822-0404</p> <p>●モリ・カケ・サクラ…私たちは闘いつづける!! ■場所:豊中市立文化芸術センター大ホール 13時半開場 14時～ 講演:白井聡さん(京都精華大学専任講師・政治学者) トークセッション:森裕子さん(立憲民主党) 福島瑞穂さん(社会民主党) 田村智子さん(日本共産党) コーディネーター:高橋純子さん(朝日新聞社) ミニ対談:相澤冬樹さん(大阪日日新聞社)vs木村真さん(豊中市議 森友学園問題を考える会) 参加費500円 障がい者・学生300円 介助者無料 参加申し込み:前売り券購入又はメール、fax、電話での予約 主催:森友学園問題を考える会 Tel・fax06-6844-2280 メールmoritomo.toyonaka@gmail.com</p> <p>●谷口たかひさお話し会 ■場所:尼崎市立女性センタートレピエ 13時半受付 14時～16時半 講師:谷口たかひささん(環境活動家) 定員125名 参加費無料 主催:谷口たかひさ講演会実行委員会 予約・問合せTel070-6921-4772</p>

12	土	<p>●どうなるの？私たちの食べものくらし2020 ～六ヶ所村核燃サイクル工場と原発の今～ ■オンラインZOOM 14時～16時 講師:アイリーン・美緒子・スミスさん 定員100名 申込先mail:event18@sizenha.co.jp 締切12月6日 参加費:無料 主催:コープ自然派脱原発ネットワーク</p> <p>●講演会「新しい自治を地方から ～子どもを核にした明石市政から考える」 ■場所:西宮勤労会館ホール 14時～ 定員:200人 講師:泉房穂さん(明石市長) 資料代:500円 高校生以下・介護者無料 定員200名 定員に達した場合抽選 主催:12・12泉房穂講演会実行委員会 TEL090-5132-0028(小柳久嗣)</p>
13	日	<p>●「救援関西」発足29周年の集い ヒロシマ・ナガサキ75年～ヒバクシャの思いをつなぐ ■場所:ドーンセンター5階セミナー室2 14時～16時半 内容:事務局報告「被爆75年の取り組みを振り返りチェルノブイリ35年・フクシマ10年に向けて」 メッセージ:山科和子さん(「救援関西」代表 長崎被爆者) チェルノブイリとフクシマからのビデオ・スライド・メッセージ 歌:アカリトバリさん 他 討論・アピール 資料代800円 主催:チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西 TEL072-253-4644(いのまた) 0797-74-6091(たなか) mail:cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp</p>
14	月	<p>●「都構想」否決の意義と課題を考える討論集会 万博・インフラへの大型開発投資と「広域一元化条例」を問う！ ■場所:エルおおさか6階大会議室 18時半 内容:どないする大阪の未来ネット事務局「否決勝利した市民パワーを次に繋ごう」 武田かおりさん(夢洲懇談会)「夢洲開発・万博・大型インフラ投資を問う」 平松邦夫さん(公共政策ラボ)「政令市の権限・財源を奪う条例制定は許されるか」 資料代:500円 主催:どないする大阪の未来ネット TEL090-3270-8244</p>
15	火	<p>●どうなってる？核のゴミ最終処分 ■オンラインZoom 14時～16時 講師:兼松秀代さん(元生協理事) 久世薫嗣さん(核廃棄物施設誘致に反対する道北連絡協議会共同代表) 定員100名 参加費:無料 申込先mail:event18@sizenha.co.jp 締切12月7日 主催:コープ自然派脱原発ネットワーク</p>
16	水	
17	木	
18	金	国際移住者デー
19	土	<p>●けんぼうカフェ ■場所:大阪YWCA本館 14時～15時半 講師:藤井 恭子さん(弁護士) 参加費:500円 主催:大阪YWCA平和・環境部委員会 申込TEL06-6361-0838(代表)fax06-6361-2997 mail <a href="http://osaka.ywca.or.jp/home.html">http://osaka.ywca.or.jp/home.html</a></p> <p>●『エコロジーと社会主義 気候破局へのラディカルな挑戦』出版記念講演と討論 ■場所:エルおおさか南館 734号室 13時開場 13時半～16時半 講師:寺本勉さん(ミシェル・レヴィー著『エコロジーと社会主義 気候破局へのラディカルな挑戦』訳者) 参加費:500円 主催:「エコロジーと社会主義」講演・討論会実行委員会 連絡先:ATTAC関西グループ mail:info@attac-kansai.com TEL090-4280-3952(喜多幡)</p> <p>●反弾圧関西連絡会学習会 ■場所:エルおおさか709号室 18時半～ 講演:「大阪第2次弾圧(ストライキ)判決について」 太田健義さん(関生弁護団弁護士) 「京都弾圧(加茂生コン事件)判決について」 森博行さん(大阪労働者弁護団代表幹事・関生弁護団) 主催:労働組合つづし大弾圧を許さない実行委員会</p>
20	日	<p>人間の連帯国際デー</p> <p>★飯森山麓クリスマスフェスタ ■場所:カトリック大東教会 14時～16時 プログラム:ペープサート「降誕物語」 カトリック大東教会有志 講演:「クリスマス-居場所のない人々のことを想う季節-」講師:ピスカルド篤子さん(シナピス・外国人信徒や難民のよろず相談窓口) ハーブ演奏:徳井由美子さん(ハーブ弾き語り) 主催:カトリック大東教会 問合せTEL090-6605-3465(高橋)</p>
21	月	
22	火	
23	水	<p>●上映会「ドキュメンタリー沖縄戦」 ■場所:エルおおさか5階視聴覚室 18時半開場 18時45分上映開始 資料代:800円 主催:参戦と天皇制に反対する連続行動 連絡先TEL・fax06-6303-0449(関西単一労働組合)</p>

